

令和4年度山梨大学教育学部附属中学校外部評価書《資料3》

令和5年3月1日(水)

令和4年度学校関係者評価委員会 作成

I 目標の達成状況に対する意見

・今年度も感染症防止対策を講じながらの教育活動であった。感染状況をみながらコロナ前に戻せる部分を学校活動で模索して行事の企画・運営を行った。コロナ禍であっても生徒の主体的、自治的な活動を最大限行えるようICT等を活用する工夫を行い実施していた。

II 取り組みの状況に対する意見

・安全管理について、災害時の避難経路、無予告時の「実際の動き」についての訓練を行い、自己評価では肯定的な評価であった結果に対し、保護者アンケートでの評価につながらない結果となっている。また、交通指導に対する自己評価では、次年度への課題等が挙げられているが、保護者アンケートでは概ねできているという結果となった。学校における現状に併せた指導内容や方法が、十分に保護者に伝わっていないことの現れではないかと推測できる。

・保護者アンケートの数値が全項目下がっている。また、「⑤分からない」と回答した保護者の割合が10%を越える項目がある。今年度もコロナ禍で保護者が来校する機会が激減し、学校の様子を知る機会が乏しくなっている。学校側からの情報発信を工夫していただくことで、保護者の心配も軽減され则认为。情報を発信する方法や何を伝えるかは工夫を行うことで、生徒が学校生活をどのように過ごしているかが見えてくると思うし、先生方の取り組んでいる様子も伝わると思う。伝われば自然と評価も高まってくると考えられる。

・今後もコロナ禍で授業や行事がどのように実施できるかを検討しなければならないことが想定される。そのような中でも生徒の活動が止まることなく、また充実したものになるように取り組み、その頑張っている様子を保護者に知ってもらえるような取組をしてほしい。

III 改善方法に対する意見

・保護者アンケートの数値が全項目下がっているので、それぞれの項目について分析を行い、改善策に基づいた実践をお願いしたい。

IV その他

・附属四校園や中学校で進めている研究について、保護者への周知を更に進めることで、学校への理解や協力体制が期待できる。ICTを活用した情報発信に努めてほしい。

・部活動の地域移行に併せて附属中学校の参加体制についても検討し、生徒にとってより良い環境を整えてほしい。

記載責任者(附属中学校 学校関係者評価委員会) 氏名 根津 佳明 